

辰野町公共施設等総合管理計画の概要

～ 将来需要に適した規模・配置により必要な施設・サービスの継続と質の向上を ～

<背景>

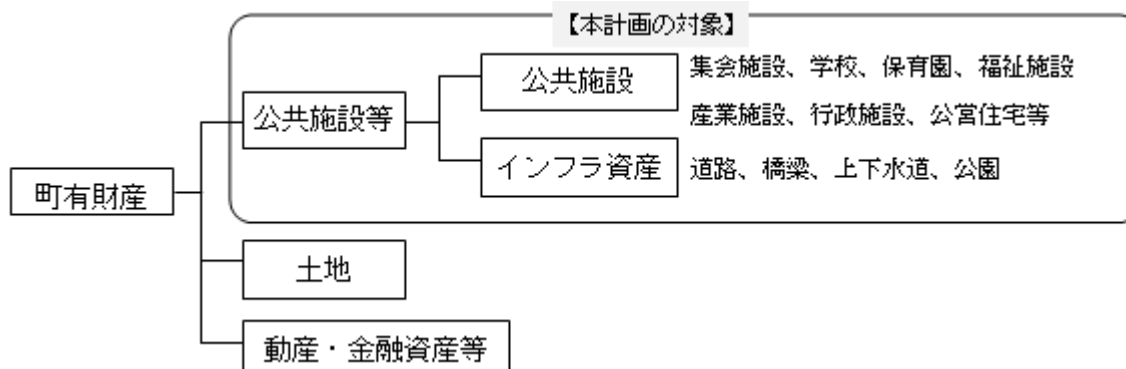
- ・ 築30年を超える建物が45.8%、老朽化が進む
- ・ 利用需要の変化で必要な施設・サービスの過不足、不適合が生じる
- ・ 人口減少に伴う財源不足が懸念

<目的>

- ・ 今後も「住み続けたい、帰りたい、住んでみたいまち たつの」に必要な公共サービスの維持と質の向上を図るため、公共施設等の計画的な更新・統廃合、長寿命化を推進し、将来の辰野町に最適な規模・配置に改善する。

<計画期間> 平成28年度～平成37年度(10年間)

<対象> 町が保有する財産のうち全ての公共施設等



現状と将来見通し

【現在・平成27年度】

人口20,369人 (H27.10.1住民基本台帳人口)
 <H27国勢調査 19,785人 前回比▲5.4%>

<普通会計>

歳入88.6億円 歳出83.1億円
 ★既存更新+新規整備等の投資的経費 8.1億円
 ★維持補修費 3千8百万円 (10年間で3.3倍増加)

公共施設 11.5万㎡

★町民一人あたり5.65㎡/人口1-3万人の市町村平均5.24㎡
 ★60年で建替 40年間の整備額 524.6億円

道路 48.6万m(町道)

★15年で舗装打替 40年間の整備額 228.1億円

橋梁 0.3万m

★60年で架替 40年間の整備額 39.7億円

公園 37.6ha (都市公園)

★町民一人あたり17.58㎡/県内市町村平均12.68㎡
 ★老朽化が著しく早急な修繕等を要する28施設

<特別会計>

上水道(管) 18.8万m

★40年で更新 整備額 183.5億円

下水道(管) 16.3万m

★50年で更新 整備額 201.9億円

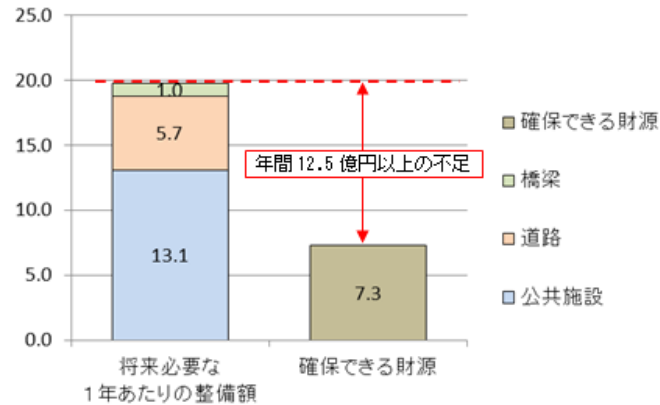
このまま10年間推移すると...

財源不足で維持困難に

【10年後・平成37年度】 人口10.2%減 歳入6%減

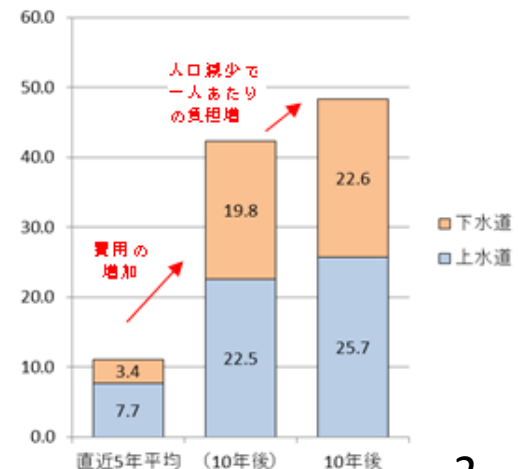
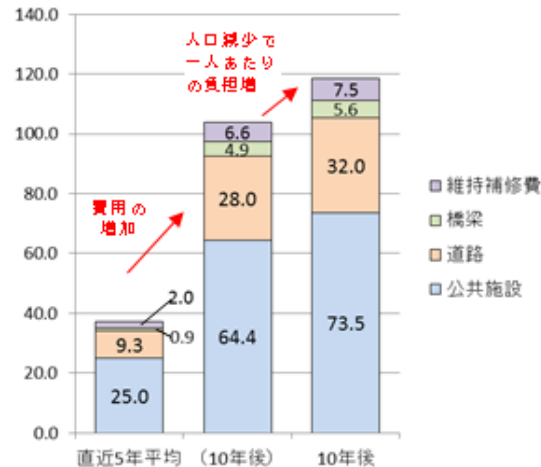
★更新費用 12.5億円以上/年が不足

現在の規模のまま供用期間をもって更新する場合
 更新に必要な費用19.8億円/年 > 財源7.3億円未満/年



★町民一人あたり更新・維持費用 3.5倍

(維持補修費とあわせて4.8→16.7万円/年)



課題解決のために・・・

＜基本的な考え方＞

基本方針1

予防保全型維持管理と個別計画の推進で供用年数を15～30年延長

6.8億円/年
削減

基本方針2

将来需要に適した規模・配置により総量13,822㎡(12%)削減

2億円/年
削減

基本方針3

民間委託・指定管理者制度の活用等で維持補修費の増を1.5倍以内に抑制

0.7億円/年
削減

基本方針4

補助金・交付金、財政措置のある起債等の活用と実施計画による実施時期等の調整

財源確保の課題解決

＜具体的な取組み＞

- ◆ 公共施設（類型別に方向付け）
予防保全型維持管理を基本に長寿命化
将来需要に適した規模・配置へ（統廃合、転用など）
指定管理者制度等の活用、施設使用料の見直し など
- ◆ 道路
生活道路の舗装・改良を重点的に実施
町全体の道路網についての将来像を作成
- ◆ 橋梁
橋梁長寿命化計画による管理
- ◆ 上水道
管路耐震化増径計画に基づく本管の耐震化
経営戦略・投資財政計画による財政負担の平準化
- ◆ 下水道
下水道処理施設長寿命化計画による管理
経営戦略、下水道総合地震対策計画により耐震化
- ◆ 公園
公園長寿命化計画による管理

＜個別計画の策定＞

平成32年度までに必要と認められる各分野・施設の長寿命化計画、整備計画を策定

将来人口規模に適した施設の配置・規模により必要なサービスの維持と質の向上を図る

将来需要に適した規模・配置の見直し例

